



みらいっうしん

11月号

2021年11月1日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 勝浦 芳子

人との関わる体験

朝晩の冷え込みが大分厳しくなり秋が深まって参りました。両手を広げて空を見上げて深呼吸すると、秋の空気のさわやかさに「気分爽快」幸せを感じます。子ども達も秋の自然を感じながら元気いっぱい遊んでいます。

さて、今年の運動会は、コロナ禍ではありましたが、保護者の皆さんや子ども達の願いが叶い、3年ぶりに新城小学校の校庭をお借りして、ほし組、そら組、にじ組が、学年ごと開催することが出来ました。子ども達にとって、小学校の広い校庭に行って運動会をすることは、憧れそのもので、期待に胸を膨らませていました。ところが、ほし組さんは、運動会そのものが初めてということもあり、開始直後は、「おはようございます」と声をかけても、かなり緊張している様子でした。親子でかけっこの時になると、笑顔があふれて来たので、楽しんでもらえてよかったなどほっとしました。そら組さんは、開始から、どの子も「頑張るぞー」と気合いっぱいで、広いグラウンドの中で、ダンスや親子競技を体全身で楽しんでいました。にじ組さんは、「みんなで作り上げる運動会にしよう」をテーマに決め、子ども達が一生懸命取り組む姿は、とても生き生きとしていて成長を感じました。特ににじ組さんは、一人一人の思いを伝え合い、係を決め、運動会の内容、ライン引き、音響、進行など、子ども達が力を出し合って準備してきました。その成果が当日見事に発揮し、担任をはじめ、応援に来てくださった保護者の方にも感動を与えてくれました。子ども達も、今まで以上に達成感を感じ取っていて誇らしげな表情でした。この「友達と力を合わせる大切さ」「やればできるという自信」をこれからも持ち続けて欲しいと思います。

10月15日は、園庭で育てているサツマイモ掘りをしました。先ず、にじ組さんが飛び込むように畑に入り、たくさん茂ったつるを引っ張りました。すると、あちらこちらから「あった！あった！」「すごーい！でっかい！」と声が上がリ、体中真っ黒になってお芋を収穫しました。その様子を見ていた他学年の子ども達も、にじ組さんに負けまいとやる気満々で畑に入り、お芋掘りを楽しんでいました。中には、お芋よりもツルを使って王冠やリースを作る子や畑の中から出てきた幼虫、カエルなどに興味を示す子もいて、千差万別な子ども達の感性に思わず笑みがこぼれました。今年のお芋は大きさや形が揃っていて、色つやが良く、100本ほどのサツマイモが収穫出来ました。後日、お芋をふかし、にじ組さんが、各クラスに届けて全園児美味しくいただきました。例年はないほくほくした美味しいお芋で、みんな大喜びでした。にじ組さんは、スイートポテト作りもして大満足。まさにお芋三昧の一日を楽しみました。



ほし組のお散歩遠足は、雨のため中止になりましたが、後日、新城高校までどんぐり拾いに出かけました。実は、遠足が予定通り実行されていたら、高校生とどんぐり拾いを楽しむ計画もあったので少し残念でしたが、当日は、校長先生、副校長先生も立ち会っていただき、地域との触れ合いができ、園外活動の体験が出来て良かったなど感じました。私は、そら組さんの遠足に同行しました。去年は、雨で一度も遠足に行けなかったのが、1年越しのリベンジで子ども達の気持ちは朝から最高のボルテージで、一日興奮状態でした。せせらぎ遊歩道を通り、大きい滑り台やアスレチックがあるところまで散歩に行き、日頃体験できない遊具で遊びました。お楽しみのお弁当タイムも、手作り弁当を美味しく食べていて、「今日の遠足は最高！楽しかった」「また行きたね」と嬉しいコメントも飛び出し子ども達の満足度が伝わってきました。にじ組の遠足は、途中雨が降るというアクシデントもありましたが、「雨の中の遠足も面白かったよ」と、子どもなりに思い出に残る遠足になりました。日頃とは違った子どもの姿も見られ、保育者も学びの一日となりました。このように、学年やお子さんの興味関心によって、人と関わる体験活動から学ぶものは違いますが、体験したことは、知恵として生まれ変わり次への意欲につながります。失敗と成功を繰り返し積み重ねることで自信を持つことができるので、私たち保育者も幼児期の体験活動は人間形成の基礎としてとても大切なことと肝に銘じて、一人一人に寄り添っていききたいと思います。

